

目次

- \* 今井会長、富岡市長新年の挨拶……………P2
- \* 第53回高崎市家族経営協定農業契約調印式開催される  
平成30年度高崎市農業会議所先進地  
農業現地研修会研修報告……………P3
- \* 平成30年度高崎市農業委員会視察研修会に参加して……………P4
- \* 高崎市畜産共進会開催される  
第32回高崎市農業まつり開催される……………P5
- \* 農業者年金について……………P6
- \* 高崎産を食べよう!!  
農地情報バンクについて……………P7
- \* 農業者紹介シリーズ⑩  
編集後記……………P8

# 農家の友

ホームページ <http://www.city.takasaki.gunma.jp>  
E-mail [nougyou@city.takasaki.gunma.jp](mailto:nougyou@city.takasaki.gunma.jp)



ゴボウ(大八木町)

**農地の貸し借りは、農地バンク登録をご利用下さい**

詳細は高崎市農業委員会事務局農業振興担当まで(TEL.027-321-1299)



## 新年のあいさつ

高崎市農業委員会  
高崎市農業会議所会長

今井 隆

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は農業委員会及び農業会議所に対して、ご支援ご協力を頂き誠に有難うございました。本年もよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

昨夏は、気温が連日40度に迫るような猛暑で農作物の生育が心配されましたが、皆さんの日頃からの丹精込めた管理などもあり、大きな影響を受けることなく実りの秋を迎えることができました。

さて、本市農業委員会では、二昨年の農業委員会改革から1年余りが経過して、新たに設置された農地利用最適化推進委員も定期的に農地パトロールを行うなど主体的に現場活動に取り組んでいます。

今後、農業委員と農地利用最適化推進委員がともに連携して、農業委員会の必須事務に位置づけられた「担い手への農地利用の集積・集約化、耕作放棄地の発生防止・解消、新規参入の促進」の農地利用の最適化を

推進してまいります。

また、現在高崎市では、6次産業化を目指したり、高崎市で生産される農畜産物の銘柄を確立しようとするなど、意欲を持って野菜、果樹の栽培や畜産業に取り組む農業者を支援するために、独自の補助制度を設けていただいております。

加工やブランド化を図ることにより、付加価値を付して流通・販売することができれば、収益の向上につながり、ひいては経営の安定に寄与することとなります。

農業委員会、農業会議所ともども、今後も市と連携しながら活気に満ちた農業者の育成に全力を傾注していく所存でございます。

結びに、今後の高崎市農政の益々の発展と皆様のご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶といたしま



## 新年を迎えて

高崎市長 富岡賢治

農業者の皆様には、健やかに新春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、気象庁が災害と認識するほどの猛暑が続いたことから、農畜産物への影響が心配されましたが、本市農業は大きな打撃を受けることなく実りの秋を迎えることができました。これも一重に皆様のご努力の賜物と感謝申し上げます。

さて、本市では「意欲とガッツのある農業者」を支援するため、6次産業化や農畜産物のブランド化に対する助成など独自の事業を展開しております。

自身が丹精込めて育てた野菜や果物、畜産物をおいしく加工して、もつと多くの人に味わってもらいたいという方や、パッケージを工夫して販売促進を目指したい方などは是非ご利用ください。

市では、皆様が意欲をもって生産された農畜産物や加工品を、高崎駅西口の大型商業施設内の「高崎じまん」で販売・PRするなど、県内外か

ら来店された多くの方々にご好評をいただいております。

この他にも新たな販路の可能性を探るため、市外各地で開催されるイベントにおいて、農畜産物のほかにもスイーツや梅干などの魅力的な加工品のPRを積極的に行っております。さらに昨年8月には、海外展開も視野に入れ、シンガポールに足を運び、その魅力をアピールしてまいりました。

今後も、高崎産農畜産物のブランド化に向けて全力で取り組み、本市の農業を魅力のある産業としてさらに発展させて参りたいと考えております。農業者の皆様におかれましては、なお一層のご指導、ご協力を賜りますようお願いいたします。

結びに、平成31年が農業者の皆様にとりましても希望に満ちた年となりますことを、ご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

第53回高崎市家族経営協定 農業契約調印式開催される



▲多くの方にご参加いただきました

去る8月24日、高崎市総合保健センター第1会議室において、第53回高崎市家族経営協定農業契約調印式が、開催されました。

調印式は主催者代表の今井農業委員会会長挨拶のあと、真下農政部長(市長代理)、吉岡西部農業事務所普及指導課長、田口高崎市農業協同組合代表理事組合長をはじめ、農業委員・農地利用最適化推進委員・関係団体の皆さんが見守るなか調印式が行われました。来賓の方々のご挨拶の後、参加されたご家族の方々が

お一人ずつ契約書に捺印をされました。

その後、調印者の経営者代表として須田栄一さん、経営者の妻を代表して須田直子さんご夫妻が誓いの言葉を述べました。

また、今年で契約調印回数 が50回・40回・20回の節目にあたる、7家族の方々が真下農政部長(市長代理)より表彰を受けました。

家族経営協定は家族で農業を経営していくうえで、個々の役割や責任等を明確にし、企業的な農業経営の実現を目指すもので現在契約を締結している家族は102家族となっております。



▲誓いの言葉を述べる須田さんご夫婦

平成30年度高崎市農業会議所先進地農業現地研修会研修報告

高崎市農業会議所 事務局長 高橋 則明



▲長野県野菜花き試験場にて

高崎市農業会議所では、本市農業の活性化と農業振興施策の研究を目的として、9月27日(28日)に先進地農業現地研修会を実施しました。研修には会員18名にご参加いただき、長野県野菜花き試験場、(有)信州うえだファーム、(株)永井農場の3ヶ所を訪問しました。



▲(有)信州うえだファームにて

1日目は、長野県野菜花き試験場を訪問しました。同試験場では、信州農業を革新する野菜、花き及び畑作物の新品種及び新技術の開発を行っています。11haの広大な圃場には、肥料の三要素の配合割合による効果を確認する試験栽培圃場もあり、60年に渡り研究を続けており、東洋の歴史を誇っています。

2日目の午前は、(有)信州うえだファームを訪問しました。同社は、JAの子会社として、JA自らが農業経営を行い、地域の担い手としての役割を果たしながら、地域農業の振興及び地域活性化を目指すことを目的として、平成12年に設立されました。荒廃農地の再生利用と新規就農者育成事業を一体的に推進する取組みは「第9回耕作放棄地発生防止・解消活動表彰」において「農林水産大臣賞」を受賞されています。現在は、ワインによる6次産業化に挑戦しており、東御市において33haの荒廃農地を地域・行政と一体となりワイン用ブドウの生産団地として再生に取組んでいます。

午後は、(株)永井農場を訪問しました。同社は、稲作と酪農を組み合わせた有機リサイクル農業を実践しています。自社で有機栽培した野菜や果物を直接販売しているほか、それらを使

用したジュース、ゼラチンなど魅力的な加工品の販売を手がけています。また、「地域農家の力強い後ろ盾でありたい」という考えのもと、近隣集落の農家から作業受託をするなど地域農業の活性化に貢献できる組織を目指しています。直営店は、本社近くと軽井沢の星野エリアに出展しており、都内でも販売を手がけるなど経営安定に力強さを感じました。

本年度の視察研修は、研修先が3箇所と多く栽培方法から6次産業化、耕作放棄地対策や新規就農者の育成と様々な面で貴重な研修となりました。ぜひこの研修会で得たものを活かして、今後の営農や地域農業に還元していきたいと思っております。



▲(株)永井農場にて

## 平成30年度高崎市農業委員会視察研修会に参加して

高崎市農業委員会 第1調査班 班長 津久井 一義

平成30年11月8日から9日まで、農業委員会の視察研修会に参加しました。

今回の視察研修会では、山梨県において、主に6次産業化と鳥獣害対策の研究を目的として農業の先進地を見聞して来ました。高崎市を出発した時は曇天模様で雨の心配もありましたが、山梨県の笹子トンネルを抜けると快晴となりました。

研修初日の8日(木)、1箇所目、笛吹市にある「有限会社マルサフルーツ古屋農園」に伺いました。ご当地名産の百目柿・もも・ぶどうを一枝一実



▲マルサフルシェにて

法や化学肥料不使用・低農薬農法で生産し、加工・販売までを一社で行っていました。パッケージも山梨産をアピールする包装のデザインにこだわりの持ち、カフェを併設した直売所であるマルサフルシェを整備し、集客を図っているとのことでした。法人の業務内容などを代表取締役の古屋貞一氏から直接説明を受け、その後、あんぽ柿の製造施設について案内していただきました。「従業員の通年雇用を考えると、ただ農作物を生産販売しているだけでは難しい。閑散期を6次産業化の加工にあてることで、はじめ通年が可能となる。」など、経営者ならではの説明を受けることができました。

2箇所目は、中央市にある「道の駅とよとみ」を視察しました。平成21年度から行われている全国直売所甲子園の初代ブランドチャンピオンになつており、新しい農畜産物の開発や試食、各種体験や展示などを中心に業務を展開しており、中央市を訪れる人々の交流拠点となっています。中央市豊富地区の農家が丹精を込めてつくった朝穫りの野菜や特産品が勢揃いでした。

3箇所目は、笛吹市にある「モンデ酒造株式会社」を視察しました。同社は、契約農家から仕入れる原料(ぶどう)の他に、自社の畑(山梨市・中央市・笛吹市にある合計3つの圃場)でもぶどう栽培を行っています。ワインなどの製造過程や貯蔵施設、販売店など6次産業化の流れを改めて勉強しました。

2日目の9日(金)は、出発する際は曇天でしたが、次第に雨が降ってくる生憎の天気となってしまいました。最後の研修場所となった甲斐市にある「山梨県総合農業技術センター」では、ホームページに鳥獣害用の防除柵の作り方を複数掲載するなど鳥獣害対策に力を入れているため、センター独自の鳥獣害対策について研修を受けました。鳥獣被害については、高崎市と同様に中山間地が多い山梨県においても大変苦しんでいるため、防除柵をいかに安価な材料でつくることができるか工夫をこらした興味深い内容も多く、また、猪や鳥の習性についても詳細な講義を受けました。同技術センター本田剛主任研究員から、「電気柵の一番の効果は獣に怖くて近づけないといった忌避効果を与えることにあるので、鳥獣の動きが鈍るという理由で冬季に通電しないと、獣が電気柵を怖がらなくなり、忌避効果が無くなってしまいます。結果、



▲山梨県総合農業技術センターにて

その後通電しても、柵を飛び越えたり潜ったりすることに躊躇しなくなり、畑が荒らされてしまう。獣を怖がらせるためにも、冬季も必ず通電してほしい。」など、動物の習性を知り尽くした講義がありました。今回の視察を振り返って見ますと、群馬県と山梨県は中山間地が多いなどの地理的な共通項も多く、鳥獣害対策など研修内容も実践的なものでした。また、もうひとつの研修のテーマである6次産業化についても我々の身近な事項・課題であり、今回の研修は大変有意義なものであったと感謝しています。



## 高崎市畜産共進会開催される

10月3日(水)、JA高崎中川支店農機具保管庫南側圃場で、第69回高崎市畜産共進会第1部乳牛・繁殖和牛の部が第46回群馬西部牛共進会と共催して盛大に開催されました。秋晴れのもと、日頃から丹精をこめて育てた牛が多数出品されました。出品者の皆様、大変お疲れ様でした。各部の入賞者は次のとおりでした。



▲丹精込めて育てた牛の晴れ舞台

乳牛・繁殖和牛の区分	乳牛の部		繁殖和牛の部	
	未経産の部	経産の部	未経産の部	経産の部
優等賞1席	吉井町多胡 LA・PACEシンジケート	鼻高町 (株)長坂牧場	上小鳥町 荻原 剛	矢中町 信澤 睦江
優等賞2席	吉井町多胡 齋藤 将聡	吉井町多胡 齋藤 将聡	正観寺町 平井 言治	吉井町池 高橋 健
奨励賞1席	鼻高町 (株)長坂牧場	上室田町 (株)長壁牧場	吉井町池 横田 とも江	吉井町池 横田 勇
奨励賞2席	箕郷町西明屋 農林大学校	鼻高町 (株)長坂牧場	吉井町長根 笠原 民夫	正観寺町 平井 言治



▲多くの方にご来場いただきました

## 第32回高崎市農業まつり開催される

11月17日(土)・18日(日)に『もてなし広場』にて、第32回の高崎市農業まつりが開催されました。高崎市は、平坦地から丘陵・山間等まで変化に富む環境の中、様々な農畜産物が年間を通して生産されています。農業まつりは、年に一度J・A・農業者・農業関係者等が一致協力して行う高崎市の大きなイベントの一つです。幅広い層の消費者が市内の農業者と交

流できる場であり、「えびす講市」「高校生販売甲子園」と同日開催することにより市街地の活性化にも大きく貢献しています。

初日は、雨が心配されましたが、2日間とも天候に恵まれ、多くのお客様に来場していただくことが出来ました。今年度は39の団体が出店し、市内産の農畜産物や加工品の販売、試食、木材や繭を使った工作や料理の体験教室などが、各テントで行われました。

昨年度に引き続き、キッチンカーが出店し、今年度は、市内産小麦や野菜等を使った各種の「うどん」を提供する新しい店が登場するなど、来場者に楽しんでいただきました。

ステージでは、お子様に人気のヒーローショーなども開催され、秋の一日を老若男女問わず大いにお楽しみいただきました。

## 農業者年金に加入し老後に備えましょう!

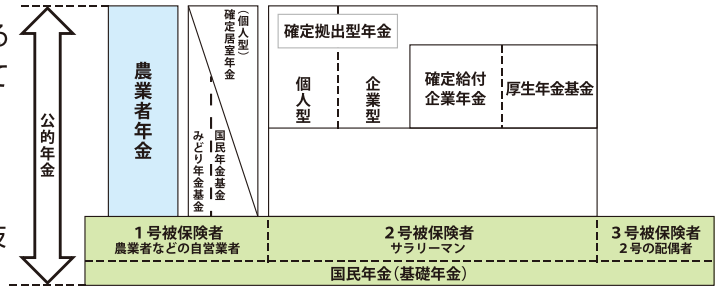
- 積立方式の年金なので、少子高齢化に強い年金です
- 保険料は全額社会保険料控除の税制優遇措置があります!
- 保険料(月額2万~6万7千円)は選べて、いつでも変更可能です
- 保険料の国庫補助を受けることができる制度があります(別途要件があります)。

### 家族一人ひとりに年金を!

農業者の方の平均寿命は、男性87歳、女性92歳となっています。老後の生活に必要なものは、一に「健康」、二に「お金」、三に「友人」あるいは「生きがい」とも言われています。その中でも、長期にわたる老後生活に備えて、生活の糧となる収入を確保しておかなければなりません。

年金は、生涯を通じて決まった金額が決まった時期に受け取ることができます。老後生活に備えて家族一人ひとりの年金を充実することが堅実な選択肢といえます。

農業者の老後生活を支える公的年金制度



### 国民年金だけでは心配!農業者なら広く加入できます!

農業者の方が加入している国民年金の年金額は、40年加入で1人月額約6万5千円、夫婦2人で月額約13万円、年額約156万円です。老後の家計費(夫婦2人で月額23万円)と比べて国民年金だけでは月額約10万円不足します。また、サラリーマンの厚生年金のモデルケース(夫婦2人で月額約22万円)と比べても月額約10万円の差があります。国民年金だけでは不足する老後に備えましょう。

- 農業者年金の加入資格
  - ・年間60日以上農業に従事する
  - ・国民年金の1号被保険者である(国民年金の保険料納付免除者を除く)
  - ・60歳未満の方

#### こんな人が加入できます!

- ・農業経営者
- ・農業経営者の配偶者
- ・後継者
- ・農業従業者
- ・農地の所有権を持たない農業者

### 加入期間が短くても老後の備えは間に合います

- ・農業者年金の保険料は月額2万円から6万7千円まで(千円単位で)加入者が自由に選択できます。
- ・加入期間が短くても保険料を増やすことで豊かな老後に備えることができます。

#### ●問い合わせ先

農業委員会またはお近くのJAへ

高崎市農業委員会事務局 / 高崎市高松町35番地1 TEL027-321-1299



## ～ごぼう入り ドライカレー～



### 材料 [2皿分]

- ごはん…………… 2杯
- ごぼう…………… 1/2本
- 豚ひき肉…………… 80g
- 玉ねぎ…………… 1/2個
- 凍り豆腐…………… 10g
- にんじん…………… 1/8本
- 絹さや…………… 4枚
- にんにく…………… 少々
- しょうが…………… 少々
- サラダ油…………… 少々
- コンソメ(顆粒)…………… 小さじ1/4
- カレー粉…………… 小さじ1/4
- トマトケチャップ…………… 大さじ1/2
- A ウスターソース…………… 大さじ1/2
- カレールウ…………… 8g
- 塩…………… 少々
- こしょう…………… 少々

### 作り方

- ①皮をこそげとり、水に入れアクを抜いたごぼうをさがきに、凍り豆腐は水で戻してみじん切りにする。
- ②玉ねぎ、にんじんはみじん切り、絹さやはゆでて、水冷してから細く切る。  
にんにく、しょうがはみじん切りにしておく。
- ③フライパンに油を熱し、にんにく、しょうがを炒め豚ひき肉、玉ねぎ、ごぼう、にんじんの順に炒める。
- ④ごぼうが煮えたら凍り豆腐を加え、Aで調味し、絹さやを加えて仕上げる。

## 農地情報バンクについて

農地を誰かに貸したい、売りたいと考えている方、農地情報バンクに登録しませんか。登録を行うことにより、農地を探している人へ情報提供を行うことができます。お互いの希望が合えば、その後は当事者間で貸借・売買の手続きを行っていただきます。登録を希望される方や規模拡大を考えている方は農業委員会事務局へお問い合わせください。

### 【農地情報バンク登録状況】

(11月末現在)

	旧高崎地区	倉渕地区	箕郷地区	群馬地区	榛名地区	吉井地区
筆数	95	6	28	43	44	32
面積 (㎡)	73,228	2,436	30,205	32,028	50,055	24,455

※平成27年12月から平成30年11月末までに登録されているものです。[登録有効期限:3年間、再登録も可能です。]

問い合わせ先：農業委員会事務局 農業振興担当 電話 027-321-1299



高崎市鼻高町の長坂牧場

長坂喜義・仁・将志 様

第10回の農業者紹介は、鼻高町の(株)長坂牧場に伺いました。

長坂牧場は、昭和62年度に畜産部門の天皇賞を受賞するとともに、最近では、平成28年セントラルジャパンジュニアチャンピオン、平成29年にはセントラルジャパンホルスタインシヨウという全国クラスの共進会で最高位賞のグラントドチャンピオンに輝き、今年は今日本B&Wシヨウでリザーブシニアチャンピオン、群馬県共進会ではグラントドチャンピオンに輝き、農林水産大臣賞を受賞するほど立派な牛を育てるなど、長年に亘り牛群改良に取り組む、県内でもトップクラスの経営を維持されています。

また、平成12年には牧場に隣接する自社工場の「みるく工房タンポポ」を立ち上げ、乳製品の販売



も手掛けています。自前の生乳のみを使用したジェラートやソフトクリーム、飲むヨーグルトは、老若男女問わずとても人気があります。

牧場では現在、2代目喜義さんが代表を務め、3代目仁さん(長男)が牧場全般を担当し、彰さん(二男)が場内管理、幸夫さん(三男)がみるく工房タンポポを運営しています。一昨年から、仁さんの息子の将志さんが4代目として経営に加わり、家族3世代で経営していらつしゃいます。

後継者不足が全国的な問題となる中、長坂牧場ではしっかりと後継者が育っています。何か秘訣があるのかと伺ったところ、「特別なことはないが、しっかりと利益の出る経営であると同時に酪農の楽しさを実感できることが重要なのではないか。」と仁さんは笑顔で答えてくださいました。

した。

将志さんは、高校3年間のほとんどを部活動の野球に情熱を注ぎ、卒業まで牛舎に足を踏み入れることもほとんど無く「牛に触れるのも県立農林大学校に入学して、授業で始めて経験した。」とはにかみながら話してくださいました。そして、農林大学校卒業後、北海道の酪農学園大学で畜産について学び、さらに1年間カナダの牧場へ留学し、海外の酪農事情についても実体験を積みました。留学先の農場では、遺伝子情報を活用したゲノミック評価を用いた遺伝子(牛、受精)販売等の先進的な経営が行われていて、先端技術に直接触れることができ、とても良い勉強になったと言います。

「日本国内では、ゲノミック評価という手法は、まだまだ普及していませんが、従来であれば搾乳してみなければ判明できなかった搾乳量等が、子牛の段階で将来の期待乳量等が判別できる。」と将志さんから解説をいただきました。「今後は、うちの牧場でもゲノミック評価を導入して、優良形質を優先させ、1頭あたりの生産量を向上させ、更なる経営の安定を目指していきたい。」と熱く語ってくださいました。

表紙の写真

大八木町 福田和年様農場にて

募集しています

編集委員会では、皆様からの身近な情報からご意見・ご要望、表紙の写真(農業関係)を募集しています。  
ぜひ農業委員会事務局まで。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。

昨年は、立冬を過ぎてからも暖かい日が続き、野菜の生育などへの影響が懸念されました。

また、全国各地で、地震や台風の影響を受けると大変な年でありました。私たちの群馬県においては、大きな被害も受けずに年を越せたというのは幸いだったと思います。

私の住まいは、高崎市北部地域に位置し、梅林、稲作、野菜栽培を中心とした農業経営をしておりますが、地域では鳥獣被害を始め、少子高齢化により耕作放棄地の増加がより一層進んでいるように思います。

その様な状況を踏まえて、残された地域の後継者の方々と意思疎通を図り、高崎市農業委員会及び地域JAの指導を受けながら、中間管理機構や地域の人・農地プランを推進し、農地創成を進めていきたいと思っております。  
(T・U)